

## 「第2期熊本県スポーツツーリズム推進戦略(2025-2027)」(素案)に関する 意見募集の結果及び県の考え方について

「第2期熊本県スポーツツーリズム推進戦略(2025-2027)」(素案)について、県民の皆様からの御意見を募集しましたので、寄せられた御意見の概要とこれらに対する県の考え方を下記のとおりお示します。

貴重な御意見をお寄せいただきありがとうございました。

### 記

#### 1 募集期間

令和7年(2025年)10月17日(金)から11月17日(月)まで

#### 2 意見の件数

9件 (3者)

#### 3 御意見の取り扱い

反 映: 寄せられた御意見の趣旨を踏まえ、内容に反映する	1件
参 考: 今後の取組の参考とさせていただくもの	8件
補 足: 寄せられた意見について案の補足説明を行ったもの	0件
既掲載: 意見の趣旨が既に案に掲載されているもの	0件

#### 4 御意見の概要と県の考え方

	御意見・御提案の概要	県の考え方	取扱
1	スポーツツーリズム施策は、人材育成やノウハウの蓄積・継承を通じて持続的に展開することが望ましく、地域と一体となって推進する視点が重要。	持続的なスポーツツーリズムの推進のため、人材育成やノウハウの蓄積・継承も含め、官民連携により取り組んで参ります。	参考
2	官民が連携してノウハウを共有・蓄積し、将来的には自立的に運営できる「自走型スポーツコミュニケーション」へ発展するのが理想。また、県スポーツコミュニケーションが先導的に県内へ展開していく体制が望ましい。	御意見いただきましたとおり、実効性のあるスポーツコミュニケーションとなるよう推進していく必要があると考えます。まずは、p29に記載しておりますように、スポーツコミュニケーション機能の拡充を図って参ります。	参考
3	スポーツの意義や地域振興とのつながりを理解した人材を育成していく必要がある。	人材育成に係る施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。	参考
4	アーバンスポーツの聖地化について「聖地の定義」と「創出する価値」といった方向性を明確にし、関係者間で共有することが重要。【本文p24】	アーバンスポーツの聖地化に関する方向性について、官民の関係者間で共通認識を形成しながら推進して参ります。	参考

5	オーバーツーリズムの弊害が顕在化するなかで、インバウンド拡大に期待を寄せるという記載は不適切。また、集客や交流人口の拡大につなげていく必要は少ない。 【本文p13】	スポーツツーリズムの分野に限らず、国際交流の進展やインバウンドの拡大は、経済発展や地域活性化へ大きく寄与するものと考えます。オーバーツーリズムへの対応につきましては、今後の取組の参考とさせていただきます。	参考
6	アーバンスポーツの人気の高まりが期待されるという事実はない。 【本文p21】	アーバンスポーツは、東京五輪やパリ五輪で多くの種目が採用され、これまで県内で開催したアーバンスポーツイベントでも多くの誘客があるなど、一定の人気を得ているものと考えています。	参考
7	アーバンスポーツの聖地化という概念は極めて唐突ではないか。 【本文p24】	アーバンスポーツは、前戦略においても、将来性の高いスポーツとして位置付け、機運醸成を図って参りました。このような流れの中、引き続き、成長力が期待されるアーバンスポーツを、推進していきたいと考えています。	参考
8	くまモンアーバンスポーツパークについて、開業に向けた各種手続きの最中であるため、この施設を前提とした戦略を全面に出した計画は認めがたい。 【本文p24】	くまモンアーバンスポーツパークの開業に向け、菊陽町で必要な手続きが進められています。御意見を踏まえまして、p24ページの当施設に係る記載について、「開業」から「開業(予定)」と修正いたします。	反映
9	アクセス性に優れた立地での球技専用スタジアムの新設が必要である。老朽化対策や防災・交流機能を兼ね備えた新スタジアムを長期的視点で計画し、次期戦略の重点課題として位置づけるべき。 【本文p31】	本戦略において、老朽化した県有スポーツ施設の創造的再生を図っていくこととしております。 また、「えがお健康スタジアム」を含む4つの県有スポーツ施設の整備の方向性等を検討するための有識者会議(公民連携によるスポーツ施設整備に関する検討会議)からの県への提言書において、将来的には、市町村や関係者と調整のうえ、球技専用スタジアムの実現を目指すことが望ましい旨の付帯意見が示されています。 いただいた御意見を含めまして、今後の計画的なスポーツ施設再生の取組の参考とさせていただきます。	参考